ハンドマイク街頭演説原稿例　日米韓の軍事協力強化に反対する

二〇二三年八月二十五日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、先日、日本の岸田首相と韓国・アメリカの両国大統領による首脳会談がアメリカで開かれ、軍事同盟の結びつきを強化し、インド太平洋、さらには地球規模での３カ国の軍事協力を「前例のないレベル」に引き上げることを打ち出しました。その目的は、軍事的な覇権主義を強める中国に対抗するため、日米韓３カ国の軍事的な枠組みづくりに乗り出そうとするものです。国際秩序を脅かす中国の無法な行動は許されるものではなく、日本共産党は中国政府に強く抗議するものです。一方、アメリカとその同盟国が中国に対する軍事的な包囲網を強めることも、地域と世界の緊張を高めるものであり、日本共産党は強く反対します。

　３カ国の首脳会談で発表された共同声明は中国について、「インド太平洋地域の水域における、いかなる一方的な現状変更の試みにも強く反対する」とし、「国際社会の安全と繁栄に不可欠な要素である台湾海峡の平和と安定の重要性を再確認する」としました。台湾に対して中国が武力で威嚇したり武力を行使したりすることが許されないことは、言うまでもありません。しかしながら、アメリカや日本などが軍事的な関与を強めることも、武力衝突につながる恐れを広げ、平和的な解決にはつながりません。

　また、北朝鮮についても、かつてない数の弾道ミサイル発射や相次ぐ軍事的活動を「重大な脅威」として強く非難しました。これも、軍事対応ではかえって北朝鮮に正当化の口実を与えることになりかねません。

　みなさん、日米韓３カ国の首脳会議で見過ごせない問題は、共同声明がアメリカによる核兵器を含む「拡大抑止」を強調していることです。これは、核兵器を使うことを前提にしたものです。同じ声明で「核兵器が二度と使用されないことを確保するため、引き続きあらゆる努力を尽くす」と言っているのと正反対ではありませんか。また、極超音速ミサイルに対する迎撃ミサイルの共同開発で合意したことも重大な問題です。開発にばく大な費用を必要とするうえ、兵器開発が新たな兵器開発を呼び込み、終わりのない軍備拡大競争をもたらす恐れがあります。兵器ばかり発達して、世界の平和は実現するのでしょうか。

　みなさん、今必要なことは、インド太平洋地域を分断し、軍事対軍事、核兵器対核兵器の危険な悪循環をつくりだす、アメリカ中心の軍事的枠組みづくりではありません。あらゆる紛争を話し合いで解決し、平和的に共存する道を追求する、外交努力に徹することです。日本共産党は東南アジアのアセアン諸国の取り組みにも学び、国と国とのもめごとを戦争にしない外交に取り組む日本の政府をつくるため、全力で取り組んでまいります。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）